

りたる管よて至極精巧なる者あり是まで未見當らざる品  
として勿論舶來の品あり定めて官軍の内精巧新式の銃を所  
持する者有りと見へたり

附 施條銃新論 二卷西洋各國施條銃異同を比較し  
圖を以て製式を示すの書あり 近日出來

今日公家衆一騎上野へ往きて巡見し玉ふ官軍あまの警衛  
す

東照宮御靈屋を先く火災を免れ玉ふ

今日晝後 大總督府の印鑑又も田安殿一橋殿の印鑑所持  
いこしはたし此門こく差支無く通行相叶い由

中外新聞第四十二號

愛應四年五月晦日

此觸書之寫

今般江戸鎮臺に差置いし付寺社町勘定之三奉行を爲廢別  
紙之通に 仰出い條諸事是迄之通可相心得事

但寺社奉行所を寺社裁判所町奉行所を市政裁判所勘定  
奉行所を民政裁判所と相唱可事

右之通に 仰出い間不洩相可相觸事

○別紙

鎮臺

有栖川大總督官

補

橋本少將

大原侍從

西四辻大夫

新田三郎

小笠原唯八

江藤新平

土方大一郎

小島千太郎

西尾遠江介

横川源藏

判事

加勢

右之通

仰出に間町中家持借屋等の者へ可相觸事

五月

○五月十九日芝増上寺より手寄を以て 西城へ差

出に内伺書

去る十五日於東叡山に誅伐に相成に脱走の人々死骸木片  
儘有之趣傳承仕に右を深きは趣意可な爲在は依とを恐察  
いへ共當山を徳川家菩提所の依よいへを最寄寺院の内へ  
仮埋いよし遣度奉存に何卒廣大の 仁慈を以て當山へ  
衣下置に松奉懇願に以上

五月

増上寺 役者

右に最早返埋の儀に 仰出に付願書差出に不及の旨  
此内達に相成によし

○五月廿二日差出に願書

先般中東嶽山に屯集罷在に彰義隊の者共一度に懇諭を  
爲在にへ共差拒み奉命不致趣遙に傳承仕に然處去る十五  
日 此追伐の一擧にて 皇威赫然恐懼之至に感戴に右  
變動にて一山衆徒悉く退去徳川祖宗以來の墳墓供養絶無  
に相成終に可及荒蕪哉と悲歎存在に何卒徳川累代の牌廟  
へは爲垂 皇愍無量の洪慈を以て東嶽山の僧侶歸寺如從  
前致精修に相寛典の此沙汰に成下に相涕泣奉懇願に誠言

五月

増上寺大僧正

右使僧念達和尚持参に 西城へ差出に由

○亞墨利加大紗領ギンソンの傳

今春此大紗領事に坐して裁判所の吟味を受け  
一が去月事濟みに成る趣傳信報告に見え  
り偶香港新聞紙を閱するにギンソン氏出身の  
小傳あり依てこゝに附記し原本漢文を以て記  
す今國字を添譯して覽に使す

現任花旗國の大憲其名を鬱臣と云ふ其出身を尋ぬるに寒  
微の家より出たる縫物師より生國を花旗南部の内よりて

文化四丁卯年の出生なり四歳の時其父の友達あやまりて  
 川水に溺れしを父も急ぎて之を救ふんとして已も亦溺  
 れ死しとりうくて賛臣の母も泣く死骸を葬り手一ツよて  
 賛臣を育てけるが固より貧しき家かれを學問を教ふる力  
 も無く十歳の時より縫物師の弟子とあり仕事を習せしめ  
 るが賛臣を子供心ふりら常々學問に志深く隣の人の教を  
 受け始めをエビシの假名よりして日用會話を始め漸く書  
 を讀み覺え晝を終日縫物をふり夜を燈の下に書を開きて  
 少しも懈怠無かりけり扱手業も次第に熟達しけれと縁と  
 の爲に南部の諸州を編歴し其後文政九丙戌年賛臣恰も北

歳母と共にテニスシ州へ移り住みけり此時既ふ妻を迎  
 へて夫婦共に縫物を對誦とふりけるが本部の人々賛臣の  
 人柄重しきを見て村役人より取立しるを今も縫仕事を止め  
 てひとすら本勤よ心を用ひ且學問懈らず四年の限満ちて  
 大老爺の職より昇り天保六年乙未年より法律公會に入り天  
 保十二辛丑年よも京城ワシントンの公會に入りしよ才學  
 日よ進み智慧日よ益し諸人の賞揚大方ならず嘉永六癸丑  
 年遂に撰擧せられてテニスシ州の部督となりけり然る  
 よ文久元辛酉年國中内亂起り敵の爲に擒せられ既よ殺さ  
 るべかりしよ一老人の救援に依て命を全くする事を得と

り其後南北戦争の間國事の勤勞する事とぐひと一たび  
二丁卯年より至りて前任の大憲林礒南方の刺客は弒せられ  
しむる國人遂に贊臣を擧げて大憲の職に陞ら日けり古人  
の諺は英雄莫問出處とも凡人の上はぞ思ひ合せける

○西洋新報 ロンドン傳信機報告を抄譯す

閏月六日亞墨利加よりの報告はセクレタリーなるスタン  
トン退役しゼ子ラールトーマス其跡役を命せられしりと  
云ふ

閏四月十二日の便はアビシニ前王の後室を病死し英  
の兵を凱陣して追々歸帆す先陣を既はシエスと著す

以大利世子婚姻濟みより普魯士の世子ゼノアは來る以大  
利の世子夫妻同所は會し其後威尼斯は往く

是班牙王の女とコウンドシルゼンチとの婚姻閏月廿三日  
國都マドリトは於て相濟みより

コウンを驚名よして王の下は屬する小諸侯あり

魯西亞と支那との交易追々盛ん成り行く景氣あり去々年  
一ヶ年の出入を會計せしよ

支那輸出 五百十九萬〇八百廿九ルーブル

支那輸入 五百三十二萬八千三百七十五ルーブル

銀貨ルーブル大凡此方の二分一未許はまゝとる

去年の分をいまだ精算せずといへとも是より倍すべし  
ロンドン 當今綿の賣買頗る盛なり

閏四月中頃の七日間

輸入 六萬五千苞 賣高 三萬七千苞

其次の七日間

輸入 七萬八千苞 賣高 五萬四千苞

茶コヒ一等を尚賣少く直段高下無し

葡萄酒より差置きたる瑪瑙の銷臺ダボンデ工ホルタ退後  
セルジヨデスイサ是より代る

柳河春三 譯

中外新聞外篇卷之二十 慶應四年五月

○横濱布告翻訳

新泻兩港未定の趣を我ニニストルより越したる  
書付相添此段英國女王殿下の臣民等へ普く布告を  
するのあり

千八百六十八年第六月廿五日 我五月六日

於神奈川 英國女王殿下のコンシェル

ラチラン・イレッセル

書状を以て進み然り此度意大利普魯士の両全權より條約